

高原川水系の環境課題と その取組の紹介

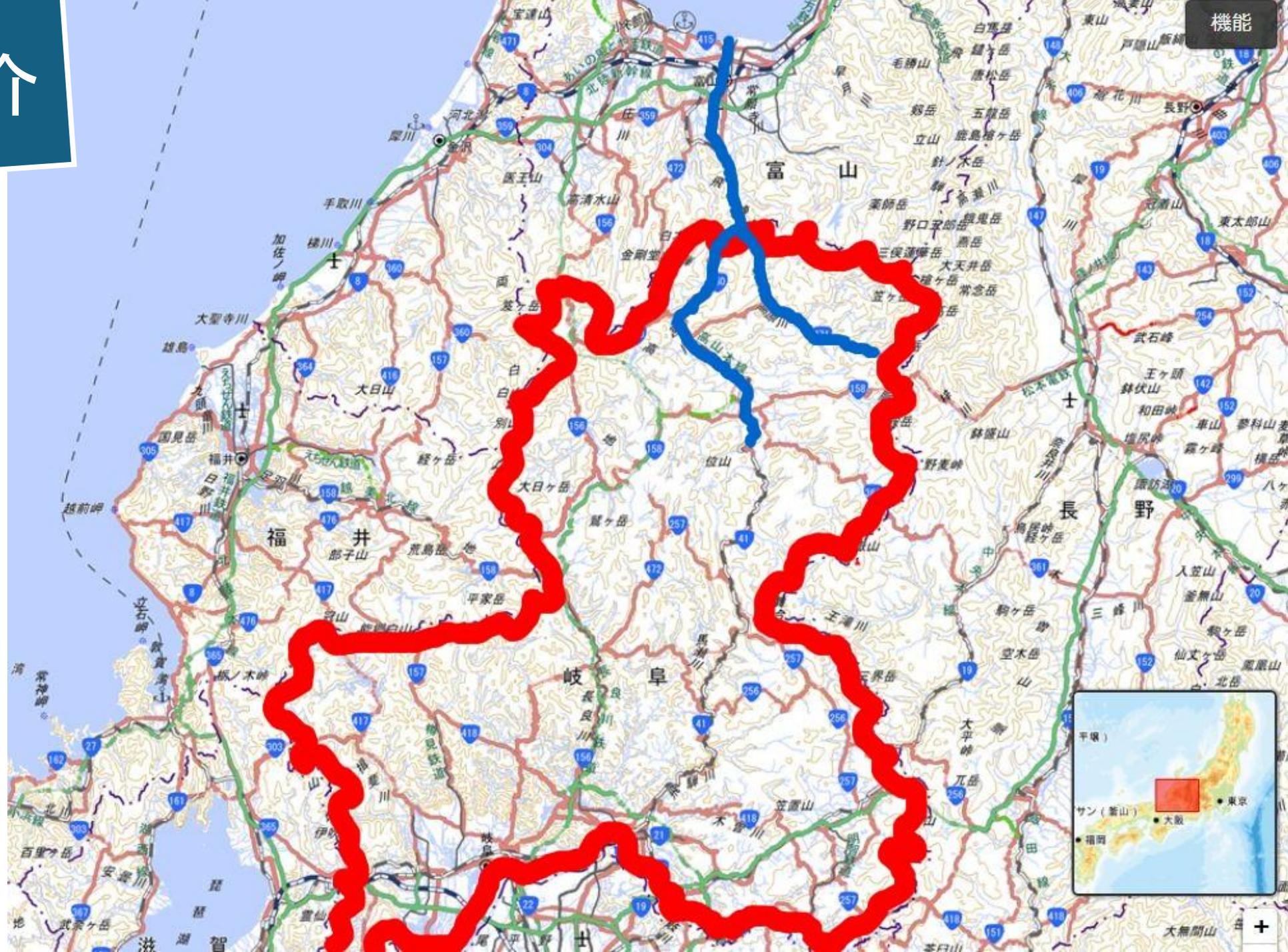
川の再生ワークショップを中心に

高原川漁業協同組合

2026年2月10日



高原川の紹介



機能

大無間山 +

高原川の流域と そこに住む魚たち



高原川漁業協同組合

- 1950年 設立認可
- 旧神岡町と旧上宝村を組合地区とする
- 組合員数 885人
- 年間予算 約9,000万円
- 役員 17名
- 職員 3名
- 事業 指導事業(漁業権管理事業のみ)



漁協にとっての河川環境

水質 企業排水・生活排水

流量 水力発電による減水域の出現

河川形態 土砂移動の変化による露盤化
河川工事後の平坦化



▲工事後に川が平坦化し砂が溜まった川
(川の再生ワークショップの実践現場下流)
撮影日:2020年4月8日

河川工事と河川環境の保全

高原川の現状概略図

【望ましい未来】

“豊かな河川環境を次世代に残す”が仕事になる

【条件①】

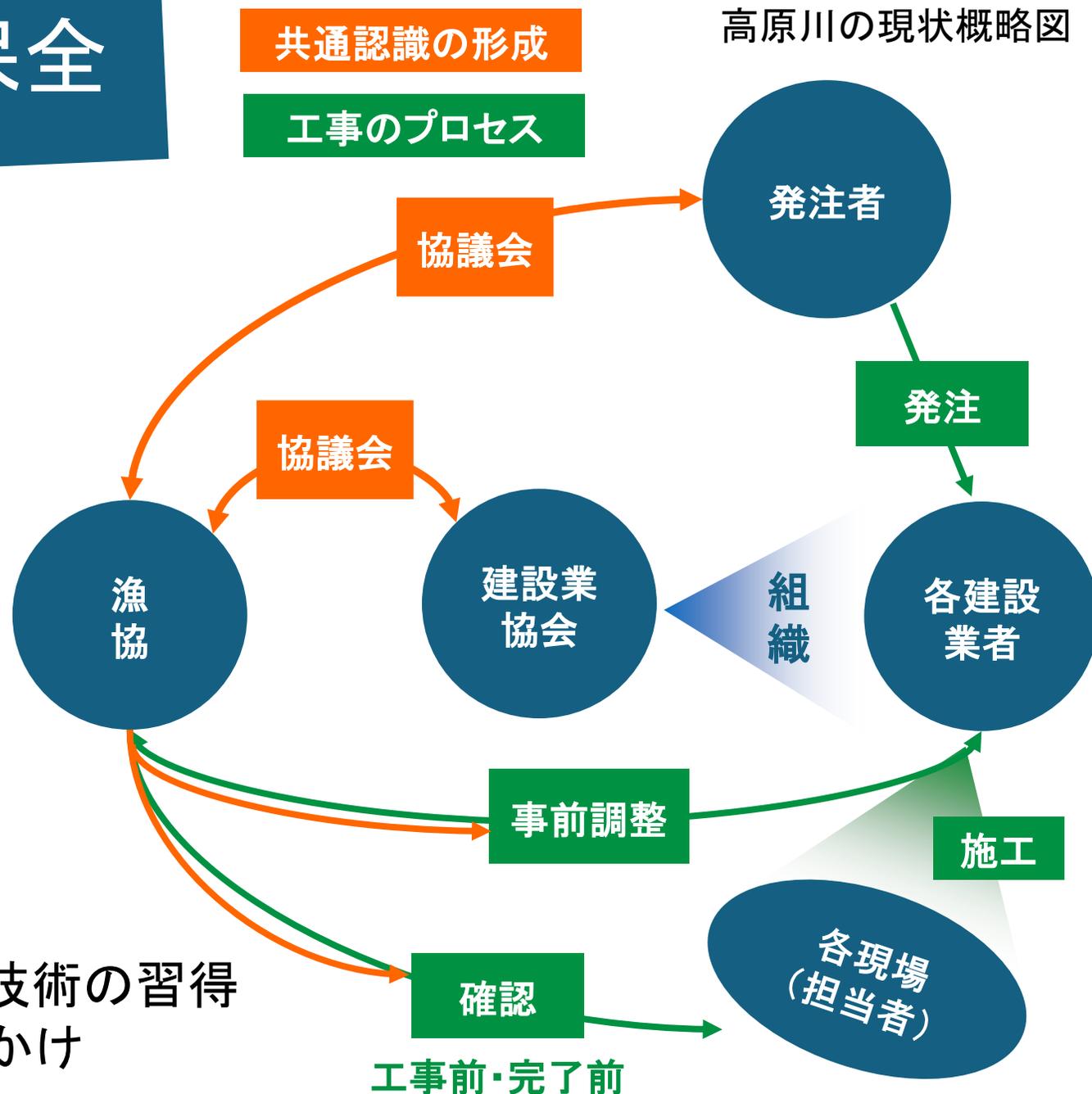
建設業者(特に現場担当者)と漁協が相互理解を深め、共通認識を持つ

【条件②】

環境保全(河床整備)に掛かる費用が予算に組み込まれている

WSの目標

- 現場レベルでの相互理解
- 河床整備に関する知識・技術の習得
- 発注者に対するはたらきかけ



川の再生ワークショップ2025 開催概要

- 開催日時：2025年11月14日（午前8時50分～午後4時15分）
- 開催場所：飛騨市神岡町内
- 参加費：税込3000円（別途、懇親会参加費5000円）
- 対象：建設業の現担当者、漁業協同組合の役員
- 講師：原田守啓 教授
（岐阜大学 高等研究院 環境社会共生体研究センター・センター長）
- 参加者：37名（吉城建設業協会の16社、高原川漁業協同組合）
 - 県河川課、古川土木事務所（所長+数名）が非公式で参加
- 企画・開催：吉城建設業協会 × 高原川漁業協同組合
 - プログラム基本設計、申込管理、司会進行等：高原川漁業協同組合
 - 河床整備に係る現場調整及び事前準備等：吉城建設業協会
- 取材メディア：
岐阜新聞（11月18日掲載）、中日新聞（11月20日掲載）

ポイント

建設業との共催！

バイリンガルな講師



**押しつけではなく
未来に向けた“共創”**

企画・プログラム

STEP

協議会で草案を提示・意見交換

現場担当者とも意見交換

(協会による河川清掃後の飲み会)

プログラム改訂・ブラッシュアップ
原田先生への相談・日程調整

本決まり

WSプログラム

インプット

AM

8:30~8:40 あいさつ・趣旨説明
8:40~9:20 高原川漁協の事業と川への願い
9:20~10:40 講話/Q&A/ディスカッション
(テーマ: 治水と河川環境保全の両立)
10:40-12:30 工事後の河川環境を視察

12:30-13:30 昼食・休憩 (弁当支給)

PM

13:30~15:45 河川環境に配慮した河床整備 (実践)
15:45~16:30 移動・小休憩
16:30~17:15 振り返り・意見交換
18:00~ 懇親会 (希望制)

アウトプットと交流

ポイント

- 企業研修として参加しやすい
- 頭と手を動かす
- 素直に意見交換できる
- 現場 ⇒ 社会 への波及
(発注者とメディアへの声掛け)

AM

なぜ河川環境が大事か、いかに残すか

8:30～8:40 あいさつ・趣旨説明

8:40～9:20 高原川漁協の事業と川への願い

9:20～10:40 講話/Q&A/ディスカッション

(テーマ: 治水と河川環境保全の両立)

10:40～12:30 工事後の河川環境を視察



- 漁協が何を考えているかシェア
- 原田先生の分かりやすい講話
 - 河川形態、環境収容力、巨石の重要性、
 - 河川管理者にできること、できないこと
 - 他地域の事例などなど
- ディスカッションはちょいムズ(現場の皆さん、とてもシャイ)
- 現場視察で午後に向けてイメージ



PM

工事後の河床整備を想定した実践

- 13:30～15:45 河川環境に配慮した河床整備
- 15:45～16:30 移動・小休憩
- 16:30～17:15 振り返り・意見交換
- 18:00～ 懇親会(希望制)

- 原田先生ご指導のもと、河床整備のアウトラインを決める
- 参加者の中からオペレーターを募り、数人が交代で重機を操作
- 事前準備した巨石を投下
- 県河川課、古川土木事務所も見学





- 中間チェック。ここでも原田先生に巨石を配置する上でのコツなどを解説していただいた

- 扇状に石を組む工法(右の写真)と、人為的に配置する巨石(キーストーン)に出水で動いた川の巨石が絡んで構造を造ると想定した配置を試験的に施工した



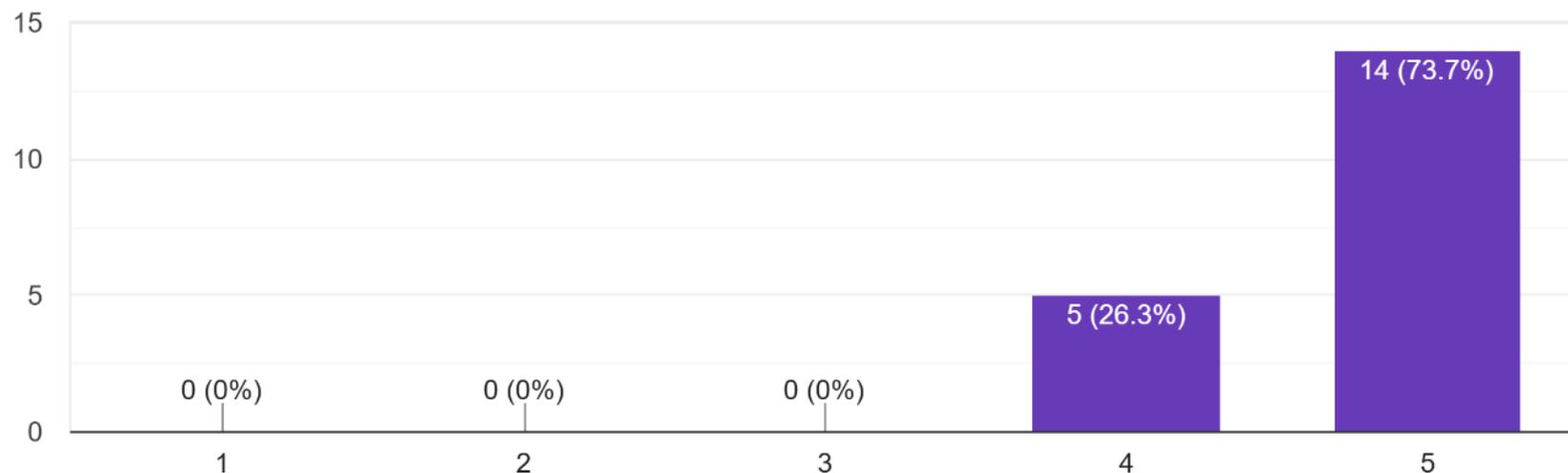
アンケート結果

ポイント

解説の分かりやすさ
“実践的”な知識
現場でのアウトプット

ワークショップの満足度を5段階で評価してください

19件の回答



評価の理由(原文ママ、一部抜粋)

「川について考え直す事ができた」「分かりやすくイメージしやすく今後に生かせると思った」
「いろんな話しできました。言いたいこと言えてよかったです。弁当の量で一1」「分かりやすかった講話。漁場整備について共通理解ができた。」「現地現物もまじえての研修でしたので理解しやすかった。」「河川再生の必要性含め理解できた」「河川の仕組み、石積施工方法など参考になりました」「これからも継続して欲しい」等

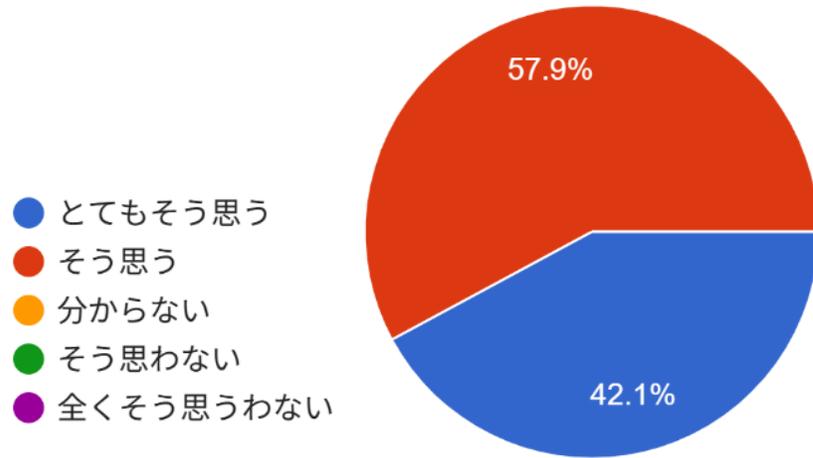
アンケート結果

ポイント

中立性と共通性を意識した企画・講師の方 現場での共創感

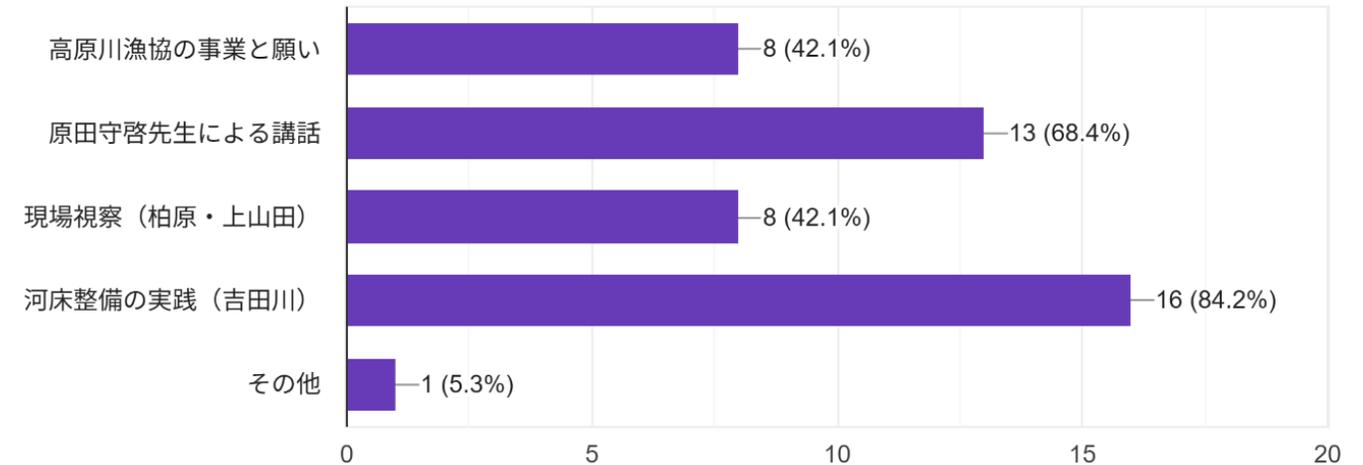
ワークショップの内容を仕事に活かせると思いますか？

19件の回答



特に印象に残ったパート(複数回答可)

19件の回答

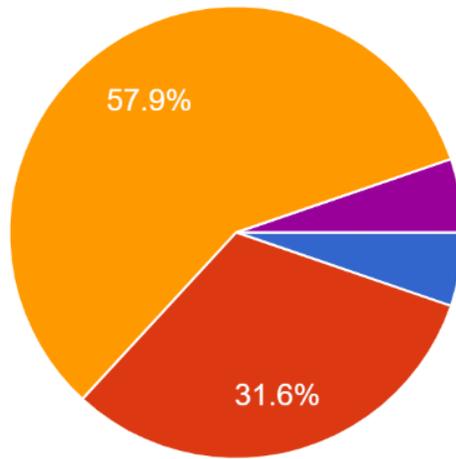


回答の理由(原文ママ、一部抜粋)

「中立の視点からの意見がとても分かりやすく、見やすかった」「石の重ね方等参考になった」「県土木事務所の意見、施工業者の率直な意見も聞けて良かった」「専門の方による説明を現地で聞きながら学べるとは非常に貴重!」「みんなで見ながら現場を出来た」「講話は分かりやすく、実践は実際に自分の目で見える所が良かった。」「河川での工事を学ぶことができました」等

アンケート結果

プログラム全体の長さについて
19件の回答



- とても長かった
- やや長かった
- 普通または適切
- やや短かった
- とても短かった

ポイント

企画の主旨・目的に
合ったプログラムの長さ

時間が許せば休憩や
コーヒースタンド

回答の理由(原文ママ、一部抜粋)

「もう少し現場実習があればよかった。石が余っていた。」「時間にも余裕があり、移動も慌てずできた」
「二日くらいかけても良かった」「季節的に寒かったがよかった。古川土木、県の担当者、建設業者、漁協の参加があったのが良かった。」「寒いので早めに上がれて良かった」「内容が内容だけにこれくらいの時間は必要」「午前に1回くらい休憩があるとよい」「もう少し短くても良いか。」等

メディア掲載

中日新聞(2025年11月20日掲載)

治水と環境保全どう両立



治水と河川環境保全の両立について考える「川の再生ワークショップ」が、飛騨市神岡町吉田の吉田川などで行われ、漁協や建設業関係者らが実際に環境に配慮した河床整備を行い、工法やその効果について理解を深めた。(山田雄大)

高原川漁協と吉城建設業協会が研修

治水と河川環境保全の両立について考える「川の再生ワークショップ」が、飛騨市神岡町吉田の吉田川などで行われ、漁協や建設業関係者らが実際に環境に配慮した河床整備を行い、工法やその効果について理解を深めた。(山田雄大)

吉田川で河床整備試験施工

治水と河川環境保全の両立について考える「川の再生ワークショップ」が、飛騨市神岡町吉田の吉田川などで行われ、漁協や建設業関係者らが実際に環境に配慮した河床整備を行い、工法やその効果について理解を深めた。(山田雄大)

岐阜新聞(2025年11月18日掲載)

河川の治水と環境両立を

河川の治水と環境保全の両立に向けた「川の再生ワークショップ」が14日、飛騨市の神岡町ふれあいセンターなどであった。地元の高原川漁協と吉城建設業協会が共催し、関係者ら約40人が生き物の暮らしやすい河床整備のあり方を考えた。(坂本圭佑)

神岡で勉強会 建設業界と漁協 アイデア共有

土木工事で河川を維持する建設業界と、生態系の保存に努める漁協が共通認識を持ち、良い自然環境を後世に残そうと初めて企画。岐阜大環境社会共生体研究センター長の原田守啓教授が講話し、時には考え方が相反することもある河川管理と漁業の両立に向けてアイデアを共有した。

「瀬で、深く、遅く、淵」が鍵になると指摘した。治水工事で川底を掘った後、石を残し、生物が暮らしやすい環境をつくる必要性を強調。「河川管理者から見た危険箇所と、漁協から見た好漁場を擦り合わせるのが大事だ」と話した。

その後、参加者は同町内の吉田川で、実際に石の積み上げを実践するなどし



治水と河川環境の両立に向けて講話する原田教授＝飛騨市の神岡町ふれあいセンターで



原田先生による
note記事



実行委員会の報告書
(本日参加の方みの閲覧をお願いします)

レポート

ワークショップ KPT(主催側の振り返り)

「Keep(継続)」「Problem(問題)」「Try(挑戦)」

K

- 座学+現場のプログラム
- 現場担当者を対象にする
 - 普段、仕事でやり取りをする人との相互理解
 - 役員の前では言えないようなこと、普段から漁協に言いたかったこと
- 発注者・メディアの参加
- 参加人数の規模感
 - 大人数だとWSとしては成立させにくい
- 研修費で経費計上できる

P

- 自由な議論やグループワークはやや難しい
 - 午後のグループワークを直前で変更
- 現場で声が聴きにくい
 - 人数次第では、マイクを使っても微妙
- 悪天候への対応(たまたま天気に恵まれた)
- 運営者不足
 - 参加者と運営者の兼任はつらい

T

- 全プロセスでの協働
 - 企画の方向性・バリエーションを考える
 - 当日の進行など
- 発注者をもっと巻き込む
- 当初計画していた2 Daysプログラム
- ワークショップで終わらせない仕組み
- 目標の再設定
 - あと何回開催して、何をを目指す？